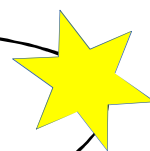




2024 WBFF Championship “Senri-Series”

千里シリーズ2024

関東勢ガチ対決！！



田中宏典（レギュラーシーズン優勝）

VS

白木建太郎（シーズン3位で選出）

2024年WBFF千里シリーズは11月9日、新たなホームステージである関大前フタバボウルで開催された。

レギュラーシーズンを代表して登場するのは田中宏典選手。今期は前半4試合に全て200UPとロケット発進し優勝を決めた。千里シリーズは2度目の出場となる。

統計的にシーズン王者は圧倒的不利というアノマリーもあり、これを払拭しチャンピオンの座を得ることができるか。

予選ラウンドを勝ち抜いたのは、今期のレギュラーシーズンで数々の高スコアの記録を更新した白木建太郎選手である。白木選手は1995年に千里シリーズに初出場して以来、今回が13回目の出場となり、これは松本誠司選手と並び最多の出場回数となる。

【構成：fuchinkan】

●予選ラウンド

白木選手ワイルドカードからファイナル進出！

まずはレギュラーシーズン制覇の田中選手のファイナルラウンドの対戦相手を決める予選ラウンドである。

杉原選手（シーズン3位）、白木選手（シーズン3位）、松本誠司選手（第4戦1着）、ジョー・タカミ選手（ワイルドカード）の4名がエントリーし、2ゲーム制の試合が東京と大阪で同時開催で行われた。

白木選手が、1ゲーム目から飛ばす。1フレのスプリットをカバーした後は5連続ストライク。その後もフルマーク、7ストライク4スペア238点と圧倒的なスコアで早々に試合を決めた。白木選手は第2ゲームでも手をゆるめず214点、大阪勢も第2ゲームではそれぞれ第1ゲームのスコアを更新したものの遠く及ばず。

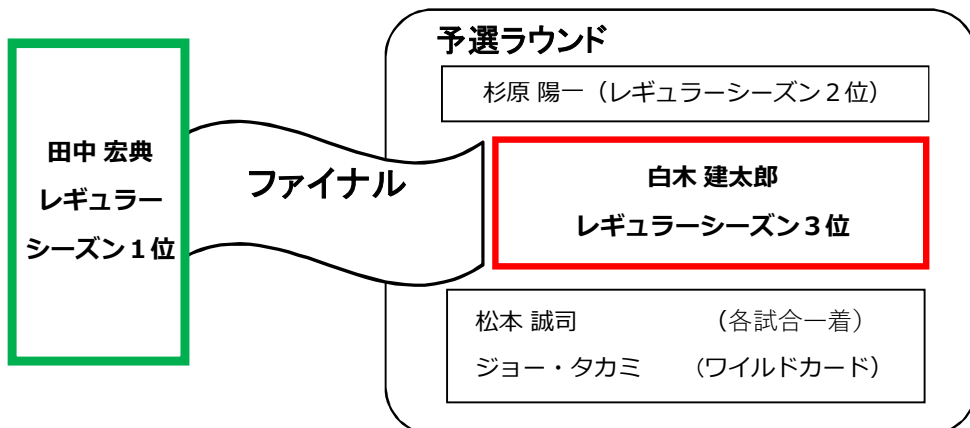
白木選手の13度目の千里シリーズファイナルステージ出場が決まった。

これによって、千里シリーズ出場は東京在住の2名となった。しかしお二人の「特別のご高配」により、この後に行われる千里シリーズファイナルステージは、日を改めて大阪・関大前フタバボウルで行われることとなった。

予選ラウンド結果

選手名	第1ゲーム	第2ゲーム	ハンデ	競技点	結果
白木建太郎	238	214	-15	223	選出
杉原選手	136	160	-3	157	
松本誠司	148	163	-5	158	
ジョー・タカミ	116	129	25	154	

※ 白木選手がファイナルステージ進出



◆ファイナルラウンド第1戦◆

白木選手超絶コントロールで1勝！

シリーズ名にふさわしい「千里山」にある関大前フタバボウルにて、関東軍ナンバー1・2の両者に来阪していただき、4万人の観衆が見守る中、2024年WBF千里シリーズは始まった。

シーズンチャンピオン田中選手のストライクから第1ゲームが始まった。対する白木選手は、スプリットからのオープン。対照的なゲームスタートであったが、田中選手のリードはこの1フレのみであった。

2フレ、田中選手がヘッドピンを外しそのままオープンとなった一方、白木選手はストライク。白木選手はその後の3フレから8フレまで連続マーク。マーク記録を見ていただきたいが、ほとんどが1投目に9ピンを倒した後のスペアカバーであり、どれもがストライクになっても良いくらい、ヘッドピンにボールが集まっていた。田中選手は、3フレもスプリット、5フレまで連続でオープン。6フレからはレーンをつかんだのかマークを重ねたが、白木選手も譲らず、このゲームは前半戦で勝負あった。5フレ段階で白木選手から早々に勝利宣言が出されたのも、自身のコンディションの良さからくる確信だったのであろう。

田中宏典 (シーズン優勝)	* 16	6 - 22	s7 2 31	9 - 40	8 1 49	9 / 67	8 / 87	* 106	9 - 115	8 / * 135	-16 119
ハンデ込み 得点差⇒	↑6										HDCP
		↓8	↓18	↓28	↓38	↓38	↓37	↓35	↓35	↓35	1勝 競技点
白木建太郎 (シーズン3位)	s8 1 9	* 29	9 / 48	9 / 67	9 / 86	9 / 104	s8 / 123	9 / 140	s7 2 149	6 / * 169	-15 154

◆ファイナルラウンド第2戦◆

10フレで同点！規定により田中選手の勝利！

第2ゲーム、田中選手はビッグ4という最悪のスタート。白木選手はスペアスタートの後、ストライクを重ねる。シーズン中ストライクを出しまくった二人にしては意外にも、この試合で初のダブルである。

しかし田中選手も、2フレストライクの後、6フレまでマークを重ねる。白木選手も4フレオープンの後、マークを重ね、2フレ近いリードのまま、終盤へ。このまま白木選手連取かと思われたが、このゲームのタ

注目の最終投球。倒したピン数は…8 ピン。まさかの同点となった。5 年前にジョー選手と白木選手のシリーズ 4 戦以来の同点劇は、規定によりシーズンチャンピオンである田中選手の勝利となった。

 田中宏典 (シーズン優勝)												
	s6 2	*	7 /	*	7 /	6 /	9 -	*	8 1	9 / 8		-16
ハンデ込み 得点差→	8	28	48	68	84	103	112	131	140	158		142
	↓13	↓19	↓18	↓7	↓11	↓11	↓19	↓9	↓9	同点 規定により	1 勝	HDCP 競技点
白木建太郎 (シーズン3位)	6 /	*	*	6 3	*	8 /	9 /	7 2	9 -	s8 1		-15
	20	46	65	74	94	113	130	139	148	157		142
												

◆ファイナルラウンド第3戦◆

スプリット禍を抑えるストライクで白木選手2勝！

第2ゲームを拾った田中選手、1フレのスプリットはカバーしたものの、2フレのスプリットはオープン。すかさず自身初ダブルで取り戻すも5フレでまたもスプリットオープン。次にストライクを出し、リカバーを図るものの得意のストライクは鳴りを潜めスコアは伸びない。

一方の白木選手は、こちらも２スプリット、さらにコントロールも乱れ、１投後の残ピンが目立ちだした。しかし百戦錬磨のベテランは、球速を落とすことで、コントロールを取り戻すことに成功。８フレからはストライクを続け、この日最高となる４連続ストライクで２００ＵＰ！

白木選手がこのゲームを取り、優勝に王手をかけた。

[illegible]

◆ファイナルラウンド第4戦◆

大外・ブルックリン狙いが奏功！田中選手も2勝！

第3ゲーム、10フレ段階で勝負をあきらめた田中選手だが、タダでは倒れない。レーンの右端からクロスでヘッドピンの左端を狙う投球を試し、良い感触を得ていた。その成果が第4ゲーム早々に現れ、ターキー発進。その後は、レーン右端からさらにく右に腕を大きく伸ばすフォームから、リターンラックに干渉するためか左レーンでは投げにくい様子で、4・6・8フレではオープンとなる。しかし右レーンである奇数フレームではすべてストライクを決め、完全にレーンをつかんだ感がある。さらに最終10フレでは偶数レーンではあるが連続ストライク。9フレからのターキーを決め、ゲームを決めた。

白木選手は、らしくない連続オープンの後は、地道にマークを重ね、8フレ段階では田中選手に数ピン差まで迫った。しかしストライク後の9フレでストライクを出せなかったことと、上記の田中選手がターキーにつながるストライクを出したことで追いつけず。9・10フレとも第1投で5ピンを残したことも最終戦に不安を残す展開となった。

★ 田中宏典 (シーズン優勝)												
	*	*	*	s8 -	*	7 2	*	s8 1	*	* * 8		-16
	30	58	76	84	103	112	131	140	170	198		182
	↑20	↑39	↑37	↑26	↑26	↑16	↑15	↑4	↑19	↑28	2勝	HDOP 競技点
ハンデ込み 得点差→ 白木建太郎 (シーズン3位)	9 -	7 2	*	8 /	9 /	9 /	9 /	*	5 /	5 / 9		-15
	9	18	38	57	76	95	115	135	150	169		154
												

◆ファイナルラウンド第5戦◆

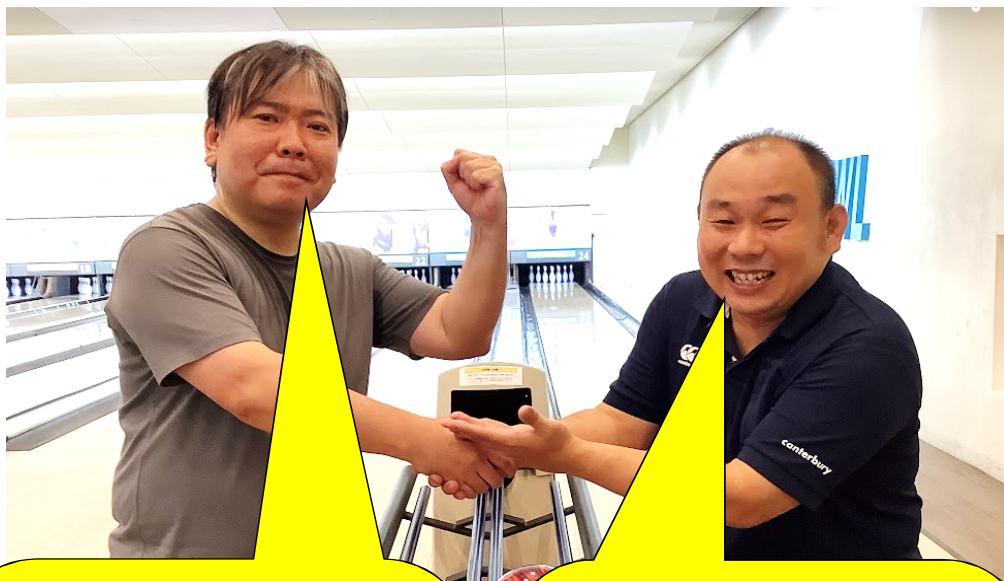
驚異の調整力！我慢のスペアで白木選手賜杯！

第3ゲームで球速の調整でコントロールを取り戻した白木選手、最終第5ゲームでも同様に自己調整力を発揮し、コントロールを取り戻す。1フレから7フレまでヘッドピンを中心にボールが集まるようになる。そしてどの投球もストライクになっても不思議ではないながらストライクにならない もどかしさを抱えながらも、第2投で着実にスペアを拾っていく。マーク記録を見ていただきたいが、右に左に様々な残ピンパターンをカバーする我慢の投球が見てとれる。

												
田中宏典 (シーズン優勝)	s7 -	*	9 /	*	7 /	7 2	9 /	*	8 1	* 9 /		-16
	7	27	47	67	84	93	113	132	141	161		145
ハンデ込み 得点差→	↓12	↓11	↓10	↓9	↓11	↓19	↓19	↓19	↓19	↓19	3勝	HDCP 競技点
白木建太郎 (シーズン3位)	8 /	8 /	9 /	9 /	9 /	9 /	7 /	*	s8 1	9 / *		-15
	18	37	56	75	94	111	131	150	159	179		164
												

激闘を終えて…

白木建太郎 3 (○●○○●○) 2 田中宏典



関東軍のレベルの高さは
おわかりいただけたと思う
白木選手

我慢のボウリングで心身ともにヘト
ヘトになりました（笑）。

ここ2か月ほどは200UP連発で好調
だったこともあり正直余裕だと思って
ましたが、やはりうちのエースですね、
簡単には勝たせてくれませんでした。
右レーンでの鋭角ストライク連発には
本当にビビりましたよ。

ところで優勝トロフィーはどこです？

良い試合はできたと思います
田中選手

育児と仕事のバランス中でほとんど
練習できず、1ゲーム目はほぼ練習と
なり落しましたが、2ゲーム目の同
点勝利で何とか繋ぐことができました。
4ゲーム目も接戦を突き放し、流れに
乗れるかと思ったのですが、やはり詰
めの甘さが出たシリーズになりました。

久々の大阪での投球楽しめました。
ありがとうございました。

千里シリーズ過去の戦績

	1989	松本誠司	4(○○○●○)	1	松本昌士
	1990	奥山満夫	4(●●●○○○)	3	下永義久
	1991	松本誠司	4(○○●○○)	1	島裕二
※1	1992	松本誠司	4(○○○○)	0	島裕二
	1993	松本誠司	4(○○○○)	0	田中寿美子
	1994	松本誠司	4(●○●○○○)	2	島和男
	1995	白木建太郎	4(●○○○○)	1	田中久
	1996	野村正明	4(○○●●△○○●○)	3	松本誠司
	1997	杉原陽一	4(○○○○)	0	松本香代
	1998	松本誠司	4(○●○●○○)	2	白木建太郎
	1999	松本誠司	4(○○○○)	0	杉原陽一
	2000	白木建太郎	4(○○○○)	0	岩田修一
	2001	杉原陽一	4(○●●○●○○)	3	ロバート・K
	2002	白木建太郎	4(●●○○○●○)	3	松本誠司
※2	2003	松本昌士	3(○●○○)	1	松本誠司 ◆
	2004	◆ 白木建太郎	3(○●●○△○)	2	松本昌士
	2005	松本昌士	3(○○○)	0	白木建太郎 ◆
	2006	岩田修一	3(●●○○○)	2	松本誠司 ◆
	2007	◆ 杉原陽一	3(○●○●○)	2	奥山満夫
	2008	奥山満夫	3(○●○○)	1	島和男.com ◆
	2009	◆ 杉原陽一	3(●○○○)	1	奥山満夫
	2010	白木建太郎	3(○○●○)	1	杉原陽一 ◆
	2011	◆ 松本誠司	3(○○○)	0	藤原聡
	2012	馬場毅	3(●○●○○)	2	白木建太郎 ◆
	2013	杉原陽一	3(○●○○)	1	馬場毅 ◆
	2014	杉原陽一	3(○●●○△○)	2	馬場毅 ◆
	2015	城戸秀行	3(○○○)	0	白木建太郎 ◆
	2016	杉原陽一	3(●○○○)	1	松本誠司 ◆
	2017	◆ 島和男.com	3(●○○●○)	2	ジョー・タカミ
	2018	田中宏典	3(○●○○)	1	白木建太郎 ◆
	2019	白木建太郎	3(○●○●○)	2	ジョー・タカミ ◆
	2020	松本誠司	3(○●●○○)	2	田中宏典 ◆
	2021	城戸秀行	3(○○○)	0	白木建太郎 ◆
	2022	島裕二	3(●○○○)	1	杉原陽一 ◆
	2023	◆ 杉原陽一	3(○○○)	0	島裕二 ◆
	2024	白木建太郎	3(○●○●○)	2	田中宏典 ◆

◆はレギュラーシーズン優勝

※1 島裕二が前後期制覇をしているため、総合優勝は島裕二と記録。
特別企画の「千里G1クライマックス」として開催。

※2 2003年以降、千里シリーズの実施方式が変更。3勝先取で優勝。